

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500119		
法人名	医療法人 かん養生クリニック		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	北九州市小倉南区蜷田若園3丁目4-9		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果確定日	平成22年12月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、閑静な住宅街にあり川・田園や公園と落ち着いた環境に恵まれた場所にあります。入居者様へは、無理の無い以前と変わらない生活が送れるよう一人一人の希望にあった活動やリハビリをとりいれています。入居者と職員は同じ場所で生活を営む家族と考え、少しでも身近に感じて頂けるようなかわりをモットーとしています。又、近隣の「こもれび」と合同レクリエーションを楽しんだり、お互いが行き来出来、気分転換や楽しみを感じて頂けるようにしています。夜間対応として、介護面での緊急対応の充実。医療面では、母体である医療法人かん養生クリニックといつでも連携がとれるよう、24時間連絡体制にて対応しています。週一回の定期的な医師による体調管理も行い医療面からのサポートも充実しており、よりよい生活が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「こもれび」は、隣接するグループホーム「こもれび」・デイサービスセンターと共に合同レクリエーションを行う等、交流・連携している。母体である医療法人の代表は認知症の専門医でもあり、連携を図りながら、入居者の「その人らしく生活される事を支援しよう」と自然体で柔軟な対応に努めている。担当者がセンター方式により情報収集し、定期的な話し合いにより、介護計画作成と日々の介護の実践を大事に支援している。管理者・職員は、常に他からの情報やアドバイスを受け入れ改善実行に取り組み、各自の役割を果すべく取り組んでいる。今後も家族や地域の人々の協力を得ながら、共に事業所の充実を図られ、地域の重要な福祉の社会資源に位置付けられる事が期待できる事業所です。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同で意見を出し合い作った地域密着サービスの意義を踏まえた目標を理念とし、実践に活かせるよう心掛けている。	地域密着型サービスの意義に沿い、設立時に職員全員の思いを込めて作成されている。「こもればの温かな日の中で、光と希望に満ちた生活を、地域の一人として穏やかに過ごして頂けるよう努めます」と掲げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	散歩等の際、挨拶を積極的にするよう心掛けている。又、地域で行われる行事への参加を心掛けている。	挨拶の励行やパンフレットを直接手渡しする等、積極的な関わりを持つよう努めている。近くの小学校の夏祭りには専用のテントが設けられる等、少しずつ地域との関係性も深まってきた。ホーム行事の餅つき大会は町内の回覧板にて案内してもらったり、近所の方が草取りを手伝ってくれたり、自然体での交流の場面がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、実際のケアの様子を報告する事で、認知症の理解を得るようにしている。又、入所の検討をしている方の相談を受けたりしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	写真を添付し、実際の様子を報告を行い、現状を把握して頂けるよう努めている。談話形式では有るも、貴重な意見と受け止め、職員ミーティングの際伝えサービスの向上につながるよう心掛けている。	隣接する「こもれば」と合同で定期開催されている。行事やレクリエーションのスナップ写真を見ていただきながら、ホームの取り組みや状況を報告している。災害対策についても、消防隊員を交えて防火について話し合いがされていた。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター主催のグループホーム交流会への参加。グループホーム協議会主催の行政との意見交換(参加予定)を通し、関係を築くようしている。	地域包括支援センター主催の交流会へ参加している。運営推進会議にも毎回参加を得ている。困難事例等、速やかに市役所に報告するなど、情報の共有、関係の構築に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法の指定基準における禁止の対象を十分に理解し、ケアに取り組んでいる。玄関にカギをかける弊害は理解しているも、ホーム前の道路は交通量も多く、危険を伴う為安全面を優先し施錠しているが、入居者の希望により職員と共に外出している。	弊害を理解されながらも安全性を重視して、現在玄関は施錠されている。近々の運営推進会議にも検討事項として提案され、家族や包括支援センター職員からの意見を求めている。	施錠については、今後も振り返る機会をもちながら、検討・工夫を重ねていくことを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングの時に学ぶ機会を設けている。又、情報を交換する事で、再度認識を深めている。		

福岡県 グループホーム こまれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がおり、研修の機会を設け職員の理解を深めている。	これまでに、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、活用に向けて支援を行った経緯もあり、研修等において職員の理解・知識を深めるよう取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、十分時間をかけ納得して頂けるよう努めている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・御家族が意見・要望を言いやすいような関係作り、及び雰囲気を作るよう心掛けている。又、入居時に公的な苦情相談窓口や御意見箱の利用について説明している。	家族への関わりを大切にしており、ベッドや筆筒など家具についての相談を受けたり、入居者の趣味の継続や通信の内容等について提案を受け、反映させるよう取り組んでいる。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2月に1回法人で行われる責任者会議にて、職員の意見等管理者より提案できる機会を設けている。又、年1回アンケート形式で個人の意見を言える機会を設けている。	企画委員による計画により、職員の意見や提案をアンケート形式で吸い上げる機会を持っている。また2ヶ月に1回、法人で行われる責任者会議にて、法人内で職員意見についても検討する機会がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々にスキルアップ、目標を持ち外部研修の希望には、勤務の調整を行っている。又、福利厚生の一部とし費用についても支援している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢・性別等特に制限は設けておらず、個々のやる気を重視している。職員がお互い尊重し、得意分野が業務に生かされ、充実した気持ちで勤務出来るよう心掛けている。	担当者制や企画委員等、役割を持つ事で、この事業所の職員としての自覚と資質の向上に向けた働きかけを行っている。定期的にアンケートを実施し、各自の今後の方針や希望、意見が表出されやすいシステムにされている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念の中に「個人個人を尊重し尊厳を守ります」と掲げている。理念の共有・実践により人権教育にもつなげていくよう取り組んでいる。	高齢者虐待防止・身体拘束・プライバシー保護等の研修を通じて、人権教育を行っている。	

福岡県 グループホーム こまれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時の研修については、経験等に合わせ期間や内容を変更している。内部研修として毎月研修会を実地している。外部研修へは、参加しやすいよう勤務時間等配慮し、費用についても支援している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センター主催のグループホームの集いへの参加、又は、事業所間情報交流会へ参加し、向上するよう取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに、ご本人様とお会いし、要望や不安等情報収集を行うようにしている。お一人お一人に合わせ柔軟な支援に努め安心して入居できるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでに、ご本人様とお会いし、要望や不安等情報収集を行うようにしている。御本人の前で話づらい内容は、日をあらためるか、電話で対応し、安心して入居が出来るよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の状況や現状のサービス内容・困っている事の情報収集を行い、御家族の了解を得て、居宅、医療関係者の意見を求め対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、コミュニケーションを切にし、洗濯・料理・食事を共にし、趣味や特技を一緒に楽しんだり、教わる事で支えあう関係につながるよう努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中での出来事を報告を行い、ご本人の為にどうしたら良いのか、相談や意向を伺うよう努めている。又、行事等の参加を呼び掛け共に支えていく関係につながるよう努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、出来る限り馴染みのある物を持ってきて頂いたり、馴染みの方が気軽に来所して頂けるような場の提供が出来るよう努めている。	居室には備え付けの物は置かず、これまでのなじみのある生活に近い状況がレイアウトできるよう配慮されている。家族の協力で帰宅されたり、母の日などで家族で来訪される事を共に歓迎している。	

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	日頃の入居者の表情や関わり合いから、関係性の把握に努めている。必要に応じ職員が会話の橋渡しをする等し、入居者さん同士良い関係が築けるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も継続した関わりが保てるよう努めている。退所先へ面会・お見舞いへ行く事や、現状の報告をして下さる方もおられる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・御家族の思いや意向が、ホームでの暮らしの中で反映されるよう、日々の会話や行動から把握するよう努めている。	センター方式を用い、把握した事項から徐々に書き込まれ、全職員の共通認識となるよう工夫している。本人の日々の会話や行動等から、思いや意向の把握に努め、カンファレンスにおいて検討し、計画作成にもつなげるよう努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、事前に情報収集を行っている。入居後も日頃の会話の中から生活歴・生活の環境等の把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や心身の状況の把握に努め、変化が見られた時は、申し送り、記録により職員全員で把握できるようにしている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・御家族の意向を大切に、ケアマネジメントを行い現状に即した介護計画になるよう努め、計画通り実行されているか、職員全員が把握している。	各担当者が、センター方式による情報収集を行い毎年更新されている。その結果、最新のアセスメントでケアマネジメントされ、その人らしく生活をしていただくための介護計画作成に努めている。また毎月のミーティングでモニタリングと評価が様式に則り実行されている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子について、個別のケース記録に記入し、変化については、業務日誌にも記入し、現状の把握・共有が出来よう努めている。必要で有れば、介護計画の見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	筋力維持の為、法人内他事業所よりハビリの対応を仰いでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等にボランティアの方に来て頂いたり、消防署の指導のもと消防訓練も実施している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望を大切にしながら、協力医療機関も含め適切な医療が受けられるよう支援している。又、母体であるかん養生クリニックより、定期的な診察を行っている。	母体法人の代表は認知症専門医でもあり、定期的に往診が行われるとともに、看護師からも日常生活の観察点や留意事項のアドバイスを得ている。その他住診による歯科の治療や皮膚科受診等、適切な医療の支援がなされている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体のかん養生クリニックより、看護師が定期的に来所し、相談・指導を仰いでいる。又、健康管理や状況把握を行い、医療活用を支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、馴染みの物を病室にて利用して頂き、少しでも安心して過ごせるよう配慮している。又、病院関係者との情報交換を密にし、ホームの受け入れ状態の報告をし早期退院が出来るよう努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた指針を示し、家族の同意を得ている。現在事例は無いが、家族の希望の把握の為アンケート調査を行っている。事業所として出来る事、出来ない事を把握し、主治医、家族との話し合いにて方針を共有していく。	入居時に、重度化や終末期に向けた事業所の指針の説明を行うと共に同意を得ており、状況に応じて家族との話し合いが重要であると考えている。また母体医療法人の医師や看護師との連携が図られ、今後必要時、家族が宿泊できる部屋も用意されている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、すぐに確認出来る所に貼ってある。又、救急救命の研修を通し、日頃から、意識がもてるようにしている。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、年2回消防訓練を地域の方の参加も働き掛け実施。地震を想定した訓練や夜間を想定した訓練も行っている。	年2回、消防署の指導のもと、昼夜を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議の実施にあわせており、特に夜間の初期対応の重要性について、消防からのアドバイスを得ている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人権を尊重し、プライバシーの保護には十分配慮し、状況に応じた声掛けや対応に努めている。	呼び名については、家族とも相談しながら、それぞれに応じた馴染みやすい声かけをしている。特にトイレ誘導にはプライバシーを損なわないように注意し、また同性による入浴介助が行なわれている。個人情報の書類等は厳重に保管されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人に合わせた声掛け、対応を心掛け、意思を尊重出来るようつとめている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日のスケジュールの設定はしてあるものの、一人一人ペースに合わせ、可能な限り希望にそえるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着られる洋服を御本人の希望を優先し、一緒に選んだり、定期的に美容師さんに来所してもらい、パーマや毛染めも希望に添えるようにしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、味付け、盛り付け、配膳、後片付け等個々に合わせ、お手伝いをして頂いている。入居者と職員は同じテーブルで食事をし、会話を楽しみながら食事をしている。	その月のメニュー担当者が献立を立てている。誕生日会は、入居者の好みを反映しており、また誕生日祝いのケーキの飾りつけは入居者と共に行なうのが恒例となっている。BGMが流れ、入居者、職員が和気藹々と食事をとっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量・水分量を記録し、管理を行っている。こまめな水分摂取を促し脱水についても配慮している。又、嚥下障害が有る方にはトロミをつけたり、ミキサー食にて提供する等し、食事の形態を変え提供している。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて口腔ケアを行っている。又、必要に応じて、協力歯科の往診を依頼している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターン・間隔の把握に努め、定期的に声掛け・誘導を行いトイレ内環境を整備し、自立した排泄が出来るように努めている。	詳細に排泄チェックが行われており、カンファレンスにおいて、個別の観察点や留意点を共有しており、自立や現状維持出来る様支援している。常時温タオルが用意され、失禁があっても即対応できるよう配慮されていた。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、植物繊維や乳酸菌を多く含む食材の提供を心掛けている。又、散歩や体操の参加を促し自然排便を心掛けている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	隔日の入浴では有るも、可能な限り状況や希望に合わせて柔軟に対応している。	入浴は予定として隔日であるが、毎日入浴出来るため、希望や状況に対応できている。時には菖蒲湯など季節感が楽しめる工夫がなされている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操・散歩・レクリエーション・家事の手伝い等、無理にならないよう日中活動に参加して頂き、夜間の安眠につながるよう努めている。又、生活習慣や体調により、休息して頂くよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋にて薬の目的、副作用等、いつでも確認出来るように努めている。薬の変更があった時は、業務日誌に記入し変化の確認に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力に合わせ、家事のお手伝いをして頂き、生活歴や趣味を生かせる生活・レクリエーションにて気分転換を図り、楽しみを感じて頂けるよう支援している。		

福岡県 グループホーム こもれび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>毎回その日の希望にそって、戸外へ出かける事は出来ていないが、可能な限り個人の希望に添えるよう散歩等に行っている。又、御家族の協力を得て、遠方の御家族に会いに行かれた方もおられる。</p>	<p>ホームの前の道路は道幅が狭く、交通量も多く、日常的に散歩するには注意が必要であるが、近くの川べりに散歩に出掛けている。花見等、季節のレクリエーションに外出したり、ホーム内の菜園の水やりや草取り等を共に行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>御家族了解のもと、所持されておられます。お買い物の際は、預かり金よりご本人にお支払いして頂く等支援している。</p>		
53	i	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望される方は、ホームの電話を利用して頂き、御家族と連絡が取れるよう支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングには、天窓より自然の光を浴びれるようになっており明るい空間となっている。畑で作った野菜や、お花を飾り季節感を感じて頂くようにしている。</p>	<p>天窓やガラス窓から自然の光を採り入れ、季節やその日の天候を知る事が出来るよう工夫されている。リビング兼食堂は、レクリエーションや行事に多面的に対応でき、対面式のキッチンからは料理する音やにおいの生活感が感じらる。換気にも留意され、床暖房もある快適で静かな空間となっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファーセットを設置、畳みのスペースも有り、好きなところで過ごせるようにしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>出来るだけ、使い慣れた物を持ってきて頂くよう御家族にお願いしている。家具の配置等、ご本人・御家族と相談しながら、居心地良く過ごせるように努めている。</p>	<p>備え付けの家具類は設置せず、個々の好みや今までに使い慣れた馴染みの家具等を、家族とも相談しながら持ってきていただき、動きや機能にあわせた配置の工夫を行っている。洋風にも和風にも、これまでの生活を継続出来るよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーになっており、車椅子の方も安全に生活出来るようになっている。又、共同トイレの一つは、可動式の手すりを設置している。</p>		